

だいたいさかなのそっせんしぎ

(上演時間 約20分)

脇本ゆかり

●登場人物

だいたい魚たち A・B・C・D・E

園長先生 (大きなだいたい魚)

イソギンチャクたち (ゆらゆら揺れる触手をつけた帽子を被るなどすると面白い)

ムラサキキ魚 (紫と黄色の、ぱっくり大きな口を開けた女の魚)

ヒョウヒョウ魚 (こっこした、ヒョウ柄の男の魚)

年上のだいたい魚たち A・B・C・D・E (大きめのだいたい魚。ひれ飾りをつけている)

年下のだいたい魚たち A・B・C・D・E (小さめのだいたい魚)

タコ (大きなタコ。墨を吐く。ダンボールに貼りつけた大きな絵を持つ、または着ぐるみのような衣装にするなど。墨に見えるものを吐くように見せられると面白い。途中で、目をこりこりした目に変えられると面白い)

ナレーター

●あらすじ

イソギンチャクが揺れる海の底に、だいたい魚の幼稚園がありました。今日は卒園式ですが、年長さんたちはまだまだ不安そう。「ムラサキキ魚やヒョウヒョウ魚が、やって来たらどうしよう?」園長先生に問いかけます。年上や年下のだいたい魚やイソギンチャクたちに元気をもらい、園長先生に贈り物(ひれ飾り)をもらい、彼らがいよいよ海に出て行くこととするとき、大きなタコが墨を吐きながらやってきて……。

●作者より

卒園が近づくにつれ、園を離れることを不安に思い始める子は、少なくないのではないのでしょうか。ずっとイソギンチャクと園長先生に守られていただいたい魚たちも、まさに同じ気持ちです。園長先生は、これからもみんなが見守っていること、そのままで大丈夫だということを伝えます。(イソギンチャクを周囲の温かさを象徴するものとして、ひれ飾りをそれぞれに備わった生きる力を象徴するものとして、配置してみました) そして後半、自分より大きな生き物たちもみな、不安を抱えながら海で生きていることを知り、勇気を出して大海に飛び出して行くだいたい魚たち。このお話を通して、子どもたちの背中を、さりげなく押すことができれば幸いです。

だいたい魚のイメージは、イソギンチャクと共生するクマノミです。

保育園の子どもたちには、『幼稚園』の箇所を『保育園』に変えるなど、自由にアレンジしてください。

ひれ飾りは、きらきら光るモールなどをひれ(肩や袖)にくっつけるようにするなど、工夫してみてください。

—幕が開く—

ナレーター

やわらかな光の粒がゆれる海の底に、だいたい魚の幼稚園がありました。

♪ 音楽／歌

♪くだいだい魚の幼稚園 みんな仲良く遊びます しっぽふりふり八の字ダンス イソギンチャクとかくれんぼ♪ 『だいたい魚の幼稚園園歌』

ナレーター

今日は、卒園式です。園長先生が、やってきましたよ。

園長先生

さあさ、年長さんたち、並びましょう。あなたがたは、今日で卒園です。

魚たち

はい。

園長先生

では初めに、今まであなたがたを守ってくれていたイソギンチャクさんたちに、ごあいさつをしましょう。

魚たち

はい。イソギンチャクさんたち、今までありがとうございました。

磯巾着たち

うん。うん。(大きく二回うなづく)

魚A

でも、先生。

魚B

ぼくたちが卒園して、

魚C

大きな声で歌わなくなったら、

魚D

イソギンチャクさんを食べに、

魚E

ヒヨウヒヨウ魚がやって来るよ。

魚たち

どうするの？

♪ 音楽／歌

♪くだいだいじよぶじよぶ だいだいじよぶじよぶ だいだいじよぶじよぶ だいだいじよぶ だいだいじよぶ だいだいじよぶの歌』

園長先生

そう。だいじよぶ。年少さんたちが、お歌を

だいたい魚たち、年下のだいたい魚たち、イソギンチャクたちが、ふりをつけて歌う

園長先生、登場

だいたい魚たち、ひれをひらひらさせながら並び

だいたい魚たち、おじぎをする

ヒヨウヒヨウ魚、舞台袖から出て来て、イソギンチャクを狙っているように、大げさに動く
イソギンチャクたち、ふりをつけて歌う